



ひろげよう! まちづくりの輪 ~手と手をつなぐ大家族リレー~



まちづくり協議会で汗を流す方の、まちづくりへの参画のきっかけ、想いなどを紹介します。

南部まち協 清水 恵子さんから バトンタッチ!

— 〇 高取まち協 杉浦 秀敏さん

(副会長兼防犯・防災グループ 防災担当リーダー)



▲杉浦秀敏さん

◆ どういうきっかけで、まちづくりに関わるようになったのですか?

会社を退職し、しばらく離れていた高浜市に帰ってきましたが、周囲の状況が分からず、それを解決するため、町内会活動に4年間参加させていただきました。ようやく周囲の状況が分かってきたところ、まち協の役員の方から「まち協に参加しないか?」とのお誘いがあり、一町内会だけでは取り組めないことができそうだと思います、参加しました。

◆ 「まちづくりの基本は“安全・安心”から」と言われますが、どんなことに取り組んでいるのですか?

一昨年(2019年)の3.11の大震災から全国的に防災に関心が高まっていますが、一町内会だけでは十分な活動ができないと実感しました。そこで、より広い範囲で対応できるように、「高取小学校区の防災体制構築」を計画しました。4町内会、消防団、日本赤十字奉仕団、アマチュア無線、民生・児童委員、婦人会、PTA、子ども会、小・中学校など、校区内の各種団体と行政職員が一緒になって、情報班、救護班、学校対応班、食糧班、物資調達班、町内会班などに分かれ、昨年7月から月1回のペースで対応検討会を開催しています。

◆ 杉浦さんの活動のモットーや原動力を教えてください。

災害発生時に確実に動ける体制づくりを目指したいと思っていますが、実際に動ける組織は簡単にできるものではなく、何度も何度も繰り返し検討することと、実際の訓練を重ねて実行することだと思っています。

また、組織内の人員が交代した際も、スムーズに対応できる体制づくりがポイントとなります。そのためには、決めたことを実施してみて、その反省をもとに次の手を打つ、この繰り返しだと思っています。息の長い活動にしていく必要があると考えています。



◆ 市民のみなさんへ、まちづくりの第一歩を踏み出すメッセージをお願いします。

災害発生時は、まずは自分の身は自分で守ることが基本になります。災害に対しての備え(非常持ち出し品の用意、3日分の食糧、家族間の連絡方法、家具の固定など)は、各家庭でお願いします。その後は、住民同士の協力でお互いに助け合いということになります。各地域では、お祭り、運動会、盆踊りなどの行事が予定されていると思いますが、助け合いの心を育むためには、まずは顔見知りの関係になることが大切です。地域の行事に積極的に参加し、お互いの親睦を深めながら防災力を向上させていきましょう。



▲行事を通じて絆、助け合いの心を育んでいこう



▲大岡英城チーフ

高取まち協特派員 大岡英城チーフから見た杉浦さん

杉浦秀敏さんは、昨年5月に、まち協の副会長兼防災リーダーに選任され、すぐに着手したのが「高取小学校区の防災体制構築事業」でした。そのスピード感に目を見張るとともに、杉浦さんの呼びかけに応じて、多くの団体・住民の皆さんが検討に参画してくださり、住民の皆さんの絆、住んでいるまちに対する愛情を強く感じています。

私は市役所職員であるとともに、一住民でもあります。高取小学校区のまちづくりのキャッチフレーズである「心ふれあう安全・安心なまち」の実現を目指して、一緒に取り組んでいきたいと思っています。

※まち協特派員…行政職員の所属部署に関係なく、チーフ1人(管理職)を含む4人の特派員により、小学校区ごとにチームを編成し、まちづくり協議会の会合への出席や活動のサポートなどを行います。